

## 年間テーマ『極西のアイランドと極東の日本』

講師：高木朝子氏（熊本高専 基幹教育部門 准教授）  
演題：『アイランド民話と日本く語りの中の自然の風景と妖精を通して』

お気づきだろうか、世界地図を見てユーラシア大陸の西（左）の端（極西）にある国がアイランド、東（右）の端（極東）にある国が日本である。アイランドのさらに西は大西洋、日本のさらに東は太平洋である。そして左端のアイランドと右端の日本が広大なユーラシア大陸を両耳のように挟み対峙している。そして実はこの両国は妙に似ている。両者とも周縁部にあって国土は小さい。そのメンタリティは多神教的である。アイランドはケルト民族でドルイド教という神秘主義的・アニミズム的な土俗の宗教が根底に息づき、日本では神道に代表されるように自然を尊び、神秘主義的かつ多神教的な気質が根底に息づいている。ケルト系の血筋に繋がるラフカディオ・ハーン（小泉八雲）が流浪の果てに同質のメンタリティをもつこの日本にやって来たということはひとつの奇跡であった。そしてハーンは英語で日本の真髄に触れて民話や説話や歌謡など日本のことを西洋に紹介し、東西の文化を橋渡していった。その傍に共に創造的なパートナーとしてセツという女性がいたのであった。

本年度の市民講座では遠く離れてユーラシア大陸を挟んで西端にあるケルト文化の気質をもつアイランドと相似た気質をもつ極東の日本文化との比較が少しでもできれば幸いと思っています。皆様どうぞ来てみて楽しんでください。

### 講師からひとこと

アイランドでは、日本と同様に自然と共に生き、畏れ敬ってきたという証拠が民話にたくさん残されています。五世紀にキリスト教が伝来し、敬虔な信者となったのにも関わらずです。日本でもかつて自然界のあらゆるものには神様がいると信じ、感謝し、畏れ敬つてきましたが、それは六世紀に仏教が伝来してもなくなることはありませんでした。遠く離れたアイランドと日本ですが、二つの国は似ているのでしょうか。この疑問に対する答えを、アイランドの民話で語られる自然の風景や妖精を通して、時に日本のものと比較しながら考えていきたいと思えます。

高木朝子

期日：令和8年6月27日（土）14：00～15：30 参加費：500円（会員は無料）

会場：お菓子の香梅帯山店ドゥ・アート・スペース（熊本市中央区帯山7-6-84 国体道路沿い）

次回 8月22日（土）八幡雅彦（別府大学短期大学部名誉教授）「北アイランドの女性小説家たち」です。

※ご来場は、駐車場が狭いため公共交通機関をご利用ください。

お問い合わせは熊本アイランド協会事務局へ

Tel.096-366-5151 Fax.096-372-1857 / Email:office@kumamoto-ireland.org